

Report

山と自然のサイエンスカフェ@信州

～2年ぶりの対面開催～

今年度は3回

今年度は当初、5回を予定していましたが、コロナ禍により2回が中止となり、3回開催しました。第1・2回は約2年ぶりの対面式。コーヒーを片手にとはいきませんでした。会場の県立長野図書館「信州・学び創造ラボ」はカフェのような和む雰囲気、多くの方が発言され、参加者のリアクションが肌でわかる楽しさを実感しました。

テーマは、気候変動・希少植物・諏訪湖

- ・第1回は気候変動。2050年頃のカラマツ林の二酸化炭素吸収量予測のお話。
- ・第2回はコロナ禍でも逞しく生きる希少植物、飯山市鍋倉山のナベクラザゼンソウ(サトイモ科)のお話。
- ・第3回(オンライン)は諏訪湖でのボーリング調査で取得した堆積物から推定された地史のお話。

オンラインと対面式

オンラインの第3回は、諏訪市や、さらに遠方からも参加いただきました。対面式とうまく使い分け、県民のニーズに合ったスタイルを模索していけたらと思っています。

(栗林 正俊・陸 斉/自然環境部)

第2回 令和3年12月10日(金)17:30-18:30

コロナ禍でも花は咲くーサトイモの推し事

参加数 20名 話題提供：高野 宏平

●内容

- 1 世界のサトイモ科植物
世界で125属・約3750種が確認されているサトイモ科植物を写真で紹介。
- 2 野生のサトイモ
野生のサトイモの花を運ぶタロイモショウジョウバエとサトイモの共生関係を紹介
- 3 ナベクラザゼンソウの生態
ナベクラザゼンソウ(サトイモ科)の花の発熱の計測結果から、神戸大学の協力によってスーパーコンピュータ富岳で熱対流シミュレーションを行なった内容を紹介。長野県工業技術総合センターが作成した花の3D模型も登場し、多岐にわたる話を紹介

●質疑

サトイモ科植物の生態など



第2回会場の県立長野図書館「信州・学び創造ラボ」



第1回会場の県立長野図書館「信州・学び創造ラボ」

第1回 令和3年11月10日(水) 17:30-18:30

2050ゼロカーボンへの鍵:信州のカラマツ林

参加数 15名 話題提供：栗林 正俊・尾関 雅章

●内容

- 1 気候変動の予測と対策
ノーベル物理学賞の真鍋淑郎博士が開発した気候モデルについて解説し、気候予測や長野県ゼロカーボン戦略を紹介
- 2 カラマツ林の季節変化
カラマツ林の気候変動応答を評価する上で重要な葉フェノロジーについてドローンなどを用いた観測研究の結果を紹介
- 3 カラマツ林のCO₂吸収
2050年時点のカラマツ林の炭素収支について、陸域生態系モデルによる予測や森林管理の効果を評価した結果を紹介

●質疑

大気海洋相互作用/ドローンによる観測技術/モデルの構造 など

第3回 令和4年1月25日(火)18:00-19:30

諏訪湖の地史を考える～過去2万年間の堆積物記録～

申込数 30名 話題提供：葉田野 希

●内容

- 1 諏訪湖の3つの特徴
諏訪湖の3つの特徴(広い集水域/構造運動でできた湖/高い山に囲まれた高標高湖)を日本列島のさまざまな湖の成因・地形と比較しつつ、特徴を写真や図を用いて紹介
- 2 過去2万年間の諏訪湖の消長
最終氷期以降の諏訪湖の地層記録から、過去の湖の拡大・縮小履歴とその要因、周辺地域で起きたと考えられる最終氷期以降の環境変動を紹介

●質疑

諏訪湖だけでなく県内の他の湖の成因/蓼科山やハヶ岳の地史/人との関わりなど



別室の進行係